

世界旅打ち気分

●第81回・未紹介だった主要場2場

須田鷹雄



写真1) チャーチルダウンズのレース風景



写真2) ウッドバインの屋内装鞍所



写真3) AWでの本馬場入場を眺める
ウッドバインのファン

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

この連載もかなり長くやらせていただき、ネタも枯渇しつつある一方でまだご紹介していない主要場もある。今回は北米から、まだ扱っていない2場をご紹介しよう。

最初は主要場も主要場、アメリカ・ケンタッキー州のチャーチルダウンズ競馬場である。説明不要、ケンタッキータービーの行われる競馬場だ。

最初に行ったのはゼニヤッタが負けた(ブレインが勝った)BCクラシックだから2010年のことになる。このときはBCマランのレース後に騎手2人の乱闘事件が起きたり、ゼニヤッタで負けたあとの記者会見でマイク・スミスが涙を流したりと、いろいろな出来事があり印象に残っている。

その後はグリーンチャンネルのロケで1回、他にプライベートでも行っているが、やはり日本の競馬ファンにも「行ったほうがいいよ」と薦められる競馬場だ。私が最後に行ったときよりも後に改修で場内が少し変わったようなので、自分でもまた機会を見て行かねばと思っている。

チャーチルダウンズというところとしてもダービーを筆頭とする大レース名に名を残すE. P. ティラーさんだ。そのほか、競馬場グルメで思い出すものがひとつある。それは2014年にロケで訪れたとき、スタンドで食べた豚肉のサンドイッチ。豚肉の煮込み、いわゆるブルドポークをパンに挟んだものだが、これがアメリカの競馬場とは思えないほどおいしかった。当時写真を撮らなかつたのが悔やまれる。アメリカの競馬場グルメナンバーワンはロスアラミトス競馬場のメキシコ料理売店だと思っが、第2位は争えるものだった。あれから10年以上経つが、まだ営業しているだろうか。

続いて、カナダからトロントのウッドバイン競馬場をご紹介したい。キングスプレットなどの大レースが行われる、カナダ最大の競馬場だ。

ウッドバインのもとになった競馬場は1874年からあったそうだが、現在の施設は1956年開場だそうである。もともと周辺にくつろぎの競馬場があり、その競合を解消しつつウッドバイン一本にしていったようで、その経緯は複雑だが、主導的な役割を果たしたのが

レースのときに行こうとする人が多いだろうが、そういう時は場内も混んでいるし、観戦する場所にもいろいろと制約がある。ヒラ開催のときに行っても有名な2本の塔やテレビで見た記憶のあるパドックの様子は見られるわけだし、ジョッキーがファンエリアを通ってのんびりとパドックに向かうところなども見られる。

チャーチルダウンズに行くときは、1レースよりだいぶ早めに着くようにしたい。併設の博物館とギフトショップがかなり充実しているからだ。

博物館は私が行ったところよりさらに充実したようで、ゲームのギャロップレーサーのような模型の馬に乗り、それをあやつって実写画面のレース体験をするようなアトラクションもできているようだ。展示物の量はかなりあるので、余裕をもつて到着したい。

併設のショップは、おそらく場内にあるギフトショップより置いてあるアイテム数は多い。競馬ファンだとはやはり欲しいのは、各年度のケンタッキータービーを記念したグラス。壊れ物なので持ち帰りに周回する用意が必要だが……。

もともとは平地だけでなくハーネスも実施していたが、ハーネスは分離されていまはウッドバイン・モホーク競馬場(この連載でもご紹介した)で実施されている。レースは左回りで行われるが、2016年から芝右回りの「ユロターフシリーズ」というものが行われたそうだが(2025年も実施されたかは確認できなかった)。大井競馬場が左回りを始めたときに、「メゾンラフィット」が廃止になったので右回り・左回りを両方実施する世界唯一の競馬場」と広報していたが、ひとつとするとウッドバインと時期が重なっているかもしれない。ここはいろいろと正確なところを確認したいと思う。

筆者は2022年に一度行ったきりなのだが、そのときはカジノを拡張するとかの話で、場内はあちこちで工事をしていた。ウィキペディア知識だが、ウッドバインにおけるカジノは99年にスロットパーラーとしてオープンし、その後テーブルゲームも導入されたとのことである。24時間・365日営業なので競馬より経営効率は高そ

ケンタッキータービー公式カクテルであるミントジュレップが作れる、通称「ミントジュレップのタレ」(シロップ)は配り土産に向いている。一番小さい50ミリリットルの瓶は5ドルだ。

馬でいうと、セクレタリアトのグッズがやたらとある。日本ではハイセイコーの世代にあたる馬、つまり三冠を走ったのは半世紀以上前のことになるが、それでもまだにグッズといえばセクレタリアト。同馬の偉大さが分かる話だ。

この博物館、実は貸し切りもできる。パーティ会場として借りることもでき、結婚式なども可能なようだ。いまの円安ではなかなか難しいが、若い読者の方にはチャーチルダウンズでの結婚式にも挑戦してもらいたいものである。

以前は、この博物館主催だった競馬場のほう主催だったか(まあその区別に意味はないのだが)忘れたが、各種有料バックヤードツアーのようなものもあったと思うのだが、この原稿を書くにあたって両者のHPを確認したところ見つけれなかった。シーズン限定なのかもしれないし、また復活するかもしれないので現地に行くときに

うで、カジノと競馬のどちらがメインなのか怪しくなっている雰囲気であった。

筆者が見たカジノ拡張工事は2019年から始まっていたそうだが、現在は4800台のスロットマシンやEテーブルという電子ゲーム、175台のテーブルゲーム、そしてその他にポーカーテーブルがあるそう。

このカジノにはホテルも併設されている。「グレートカナディアンカジノリゾートトロント」という名前のこのホテルは競馬場の4コーナーにあり、「レーストラックスキング」という部屋がある。その名の通り、部屋からはレースが眺められるように、ぜひ開催日に泊まってみよう。ぜひ開催日に泊まってみよう。ぜひ開催日に泊まってみよう。ぜひ開催日に泊まってみよう。

ウッドバインに行ったら、ぜひ体験してほしいのが屋内装鞍所。スタンドの中に装鞍所があり、出走馬の様子を見るファンが見やすいようになっている。屋内に装鞍所がある競馬場はアメリカなどでもよく見るが、ここは外ラチ沿いのファン側にテーブルのようなものが作られていたりして、メモがとりやすい親切な作りだ。